

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

大学院 電気通信学研究科 博士前期課程 システム工学専攻 専攻		
氏 名	藤井 康晴	学籍番号 0435027
論 文 題 目	An ERP Collaboration Approach for Distributed Environment by Decision Support System	
<p>要 旨</p> <p>e-Businessやe-Commerceのようなe-Workの中で、生産企業は分散型の環境下で情報プラットフォームを活用し、生産情報のつなぎ目のない統合を提供するためのネットワークエンタープライズとして機能している。主に生産、製造、購買各部門を繋ぐ企業基幹業務(ERP: Enterprise Resource Planning)は、協働を果たす全体的活動を円滑にするための生産企業情報基盤として働いている。分散型の環境下におけるネットワークエンタープライズのより良い全体目的を達成するために、企業内部部門間の情報共有のみならず、部門の意思決定者間の協働による知識の最適活用が必要とされる。1つのERPの上で、意志決定者間でベストプラクティスを共有するフェイス・テュー・フェイスの協働では、協働しない場合より、純利益や納期のパフォーマンスといった観点から55%まで改善されることが分かった。しかしながら、意志決定者間での電子的なコミュニケーションを通じた遠隔の協働が、フェイス・テュー・フェイスの協働の代わりに必要とされている。それゆえ、効果的な遠隔の協働を実現するために、分散型環境下におかれた意志決定者は意思決定支援システム(DSS: Decision Support System)に期待している。</p> <p>本研究は、協働やコミュニケーション、知識のレベルといった生産企業の意志決定者間での全体的活動の効果に着目する。すなわち、意思決定支援システムによる分散型環境下のERPにおける全体的活動の効果アプローチする。まず、MERP (Management Enterprise Resource Planning)を使ったERP協働モデルについて紹介する。そして、意志決定者が行う全体的活動を3レベルに分けて定義する。次に、ニューラルネットワークやファジロジックを用いた1つの意思決定支援システムをナレッジの最適活用のためのアプリケーション開発ソフトであるナレッジビルダーによって構築する。最後に、MERPシミュレータによる意思決定実験を行い、分散型環境下や意思決定支援システムを用いた場合などによる全体的活動の効果について考察する。</p>		